

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1472700556		
法人名	(株) ジャパウイン		
事業所名	グループホーム三浦こもれび		
所在地	神奈川県三浦市初声町高円坊1452 (電話) 046-889-3350		
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市港北区新吉田東5丁目76-35		
訪問調査日	平成19年11月7日	評価確定日	

【情報提供票より】(19年10月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤 10人, 非常勤 0人, 常勤換算 10人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52000~58000 円	その他の経費(月額)	54,000 円
敷金	有() 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(480000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1100 円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性 4名	女性 5名
要介護1	0名	要介護2	2名
要介護3	7名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 80.4歳	最低 65歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三浦診療所、三浦市立病院、横須賀市民病院、福井記念病院、古屋歯科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◇事業所は、三浦地方特産のキャベツや大根畑に囲まれたゆったりとした住環境にある。屋外では庭の広さを活かして菜園を作り、土いじりを大切に園芸療法を試みている。
 ◇「施設ではなく、こじんまりした家庭であること」をモットーに、利用者9人全員の自主性を尊重し、利用者が家族として信頼しあえる関係を築くことを基本的に運営している。
 ◇食事を大切にして、メニューづくりから調理までを利用者と一緒に取り組んでいる。近所の方や、家族が届けてくれる採りたての野菜を使い、庭の菜園で取れたジャガイモでコロッケを作ったり、近海の新鮮な刺身を取り入れなど、楽しむ食事に取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回の評価での指摘事項については、何れも改善されていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個室の表札:個人の好みも取り入れて見やすく楽しい表札に改善した。 ・外部研修への参加:提携医療機関の診療所の研修会に参加できるように交渉して実現した。老健、特養に職員を派遣し、異なった事業体、施設から介護のあり方を学ぶことについても施設との話し合いが整った状態で実施する予定である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤者の時間帯に合わせて、何度か職員間でミーティングを行い、全員が参加して自己評価票の設問に取り組み、管理者が全体のとりまとめを行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は、三浦市の担当者、民生委員、家族代表(2名)、ケアマネ、管理者と職員で構成され、3か月毎に開催しており今回は12月の予定である。 ・これまでの主な討議内容は、ホームの運営、入居者の生活状況、地域密着型サービスのあり方、地域交流についてであった。ホームの運営に関するメンバーの要望や意見など、雑談も含めて自由に意見を交換した。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ごとに担当者を決め、利用者や家族の要望や意見を聞きやすい体制をとっている。 ・職員間の情報も全て担当者に集約し、効果的にケアに活かしている。 ・日常的に家族とは交流も多く、気楽に話せる関係を築き、些細なことも記録して、カンファレンスで対応策を話し合っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入しており、地域の行事には職員が入居者と共に積極的に参加している。 ・ホーム主催のイベント(コンサートを頻繁に実施)のお知らせを、自治会全域と市内のグループホームに配布し、いつも大勢の参加者があり楽しく交流している。 ・散歩時には近所の人と挨拶、雑談を交わっており、野菜の差し入れが頻繁にくる間柄になっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・理念「こもれびの陽だまりの中でやさしさ、思いやり、感謝の気持ちを忘れずに喜びあふれた交流の輪を地域に築きます」を実践している。 ・事業所と地域のイベントへの参加を通じて、心の通った交流をしている。また、近隣の農家から野菜が届くなどの親密な関係が築かれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・朝の申し送りのミーティングの時間を利用して「三浦こもれび介護理念」を唱和している。 ・介護のあり方については、定例会議や申し送りの時、管理者及びケアマネと職員間で話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会に加入しているため、回覧板で常時地域のイベントなどの情報を得ている。 ・自治会のイベントには、職員が利用者と共に積極的に参加している。 ・事業所主催のイベント(コンサートその他)を自治会に案内し、いつも大勢の参加者があり盛況である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・評価の意義について、事前に管理者から職員に説明した後、夜勤者の時間帯に合わせてミーティングを持ち、全員が参加して自己評価を作成した。 ・自己評価の過程で、介護のあり方を再認識できた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は3か月毎に実施しており、次回は12月に予定している。会議では、事業所の運営状況や、入居者の生活状況を説明した。 ・その他、自由な雰囲気の中で、地域密着型サービスのあり方や、地域との交流の仕方について意見交換を行った。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・毎月入・退居状況の報告に市役所へ出向いており、分からないことは、直接市の担当者に聞いている。 ・市から利用者を紹介して貰っており、市の職員の事業所訪問時に話し合う機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月の請求書に、事業所内での生活の様子を知らせる「こもれび通信」を添えて郵送している。 ・家族の面会頻度は高く、来訪時に日々の暮らしぶりを伝え、健康状態の変容などの緊急時は電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情受付窓口については、重要事項説明書に事業所の窓口と、外部の苦情申立て機関3ヶ所を明記している。 ・家族とは交流も多く、気楽に話せる関係を築き些細なことも苦情記録に残して、カンファレンスなどで話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・新人は早く馴染めるように利用者全員に紹介し、先輩がフォローしている。一方、辞める時は、特に皆には知らせず自然に忘れるようにしている。 ・職員の要望を聴き、職員の個性を活かした働きやすいシフトにする努力をしている。 ・管理者は職員を家族として考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・提携医療機関の三浦診療所の看護師の研修会に事業所職員も参加している。 ・老健、特養に職員を派遣し、異なった事業体、施設から介護のあり方を学ぶことを計画しており、施設との話し合いも整って近々実施の予定である。	○	・職員を他の事業所へ派遣しての介護サービスの研修を軌道に乗せ、今後継続して実施されることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市内14のグループホームで作る連絡会に入っており、年2回の集まりに参加している。 ・事業所が大きなイベントを実施する時は、近くのホームの職員と利用者を招待して交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前に希望する利用者と家族に来てもらい、ホームの生活の様子を実際に確認して、次に仮入居、馴染んだところで入居の手順を踏んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者の経歴、個性を尊重し生き甲斐を感じる生活ができるように、次の諸点での配慮をしている。 *これまでの生活に馴染んだことば遣いをする。 *料理、掃除の分野は、教わる姿勢で一緒に行く。 *自主性を重んじ、明るく、楽しくを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入所時のアセスメントに加え、入所後は担当者が利用者の部屋を訪問して直接思いや意向を聞き出している。 ・上手く言えない方については、押し付けにならないよう配慮しながら、表情を見て汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・利用者ごとに居室担当制をとっており、担当者が利用者の言葉、気付き、提案をメモに書いている。 ・計画作成担当者が、居室担当からのメモを参考しながら管理者と相談して計画書を作成している。 ・家族に説明して納得してもらい署名と印鑑を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・基本的には3ヶ月ごとに見直している。 ・月に1回のカンファレンスの時に、介護計画について職員と意見交換して作成している。 ・状態に変化があった時は、期間に関係なく見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族が通院に同行できないときは、職員が付き添い対応している。 ・遠方の家族が面会に来た時は、親戚が我が家に遊びに来たと同じように考え、家族に宿泊や食事を勧めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・全ての利用者が、入居と同時に事業所の協定病院に主治医を変更している。 ・協定書を交わした病院は5箇所あり、特に近くの診療所とは月に1回の往診と、緊急時の問い合わせに対応してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・医療の必要のない方には、看取りまで対応したいと考えており、職員とは事例を基に話し合っている。 ・過去、一人の利用者を診療所の医師(24時間携帯で対応)と家族と相談しながら、全職員で看取った経験があり、感動と自信を持てた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員の入職時に、守秘義務に関する覚書を取り、カンファレンスや朝のミーティングでも繰り返し伝えている。 ・個人の書類や記録は書類ケースに保管している。 ・利用者は目上の方として、言葉遣いには配慮しつつ、慣れた「地の言葉」を使うことで親しみと意思疎通をはかる上で効果を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一日の流れ、生活のベースのマニュアルはあるが、個別の支援を心がけて、朝食も9時半頃までのゆとりを持っている。 ・午前中は、体操やゲームのアクティビティの時間を設けているが、午後は利用者が好きなことを思い思いにできる時間としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・大切な楽しみである食事は、メニューから利用者と一緒に考えている。利用者の好みを取り入れ、施設では敬遠しがちな生ものも食材を選んで提供している。 ・菜園で育てた野菜を食材として利用している。 ・調査時には職員と一緒に調理をしたり、下膳、食器洗いをする利用者の姿があった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・月、木を入浴の日としているが、便失禁や、普段拒否の強い人が“入りたい”と意思表示したときは対応している。医師の言うことなら聞き入れる入浴拒否の利用者に対して、白衣を着てめがねを掛けて誘い成功したことがある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・自分が役に立っているという気持ちを持ってもらうよう、活躍の場面作りをしている。着付けの上手な利用者にも、浴衣を着せてもらい夏の夕涼み会に参加した。農家出身の方に草むしりを手伝ってもらっている。 ・職員は“ありがとう”と感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・毎日、施設の周りを思い思いに散歩する利用者、職員と一緒に歩く利用者など、それぞれのペースで散歩を楽しんでいる。玄関や庭にスロープが設けられ、車椅子での散歩に配慮している。 ・月に2回程度ドライブにでかけたり、大きなスーパーに買い物に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中、東(庭への出口)と西(駐車場への出口)は南京錠をかけているが、玄関はいつも開放している。 ・各居室の掃きだしの窓は、安全のため一定以上は開かないようにしている。 ・各居室のドアは、利用者が内側から施錠、開錠できる構造になっている。(外側からも開錠できる)		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年に1回消防署の方に来てもらって避難訓練を行っている。今年は12月に予定している。 ・廊下に2箇所排煙窓の操作ボタンを設置している。 ・地域との協定書はないが、組長さんには、口頭ではあるが、協力をお願いしている。	○	・運営推進会議の場を通して、地元自治会と防災協定が締結されることを期待したい。 ・3日分の水、食料、及び排泄用品などの必需品を、災害時に備えて備蓄しておかれることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		○栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・水分、食事の摂取量を記録している。 ・1日1500カロリーとし、塩分は控えめを心がけている。 ・本社の栄養士に年に1から2回アドバイスを得ている。 ・嚥下の悪い方にはきざみやとろみ食を用意し、糖尿病の方には減量感を補うために、器や盛り付けを工夫している。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・建物は平屋で吹き抜けになっており、高部に窓が付いていて明かりや風を入れる工夫をしている。 ・リビングの一部には和室があり、大きな掘りごたつを設けて利用者のくつろぎの空間になっている。 ・壁には利用者の作品や行事に参加した写真が飾られていた。 		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・各居室には、作りつけのクローゼット以外は全て利用者の馴染みのベッド、家具が持ち込まれていた。 ・畳を入れている方、家族の写真を飾っている方、それぞれ個性のある居室であった。 ・居室は掃除が行き届いていた。 		